



路政春秋

或日の新聞・交通地獄 繪卷

此は獨り地方の都市の問題ではない。大都市でも往々街頭に目をそむけさす事象である。試みに或日の新聞にある活字の影をかゝりて見る。北海道の大支關函館に降りて棧橋から驛前に出た瞬間、交通の目茶苦茶をまざ〜と見せつけられて、これが復興函館かと幻滅の悲哀を感じたまるでお話にならない亂脈さに一種の腹立たしさを覺えた、ほんの一晝夜滞在した旅行者の目についたものでも枚擧に遑ない。バスの停留場が一定して居ない事として時によつては電車軌道上で乗客が昇降して居る。通行人

の歩道外、即ち車道交通は日常茶飯事らしく加之左右に注意するでなく悠然と斜に横斷して居る、それかあらぬか自動車、時にはバスが電車の右側を超越して居る、自動車は軌道内を又は歩道を馳つて居る電車の乗客は反對側から鎖をくゞつて乗込んで居る。車内では大きな荷物が吊皮に揺られて居る老を知らぬ顔で席を占めて居る中央部をガラ空きにして出入口に殺到して居る乗客、全く彼等は家に交通道徳を置忘れて来たのではないかと思はれる程。歩道は閉却されて荷物を積んだリヤーカーや自転車の置場となつて居る。通行人の歩道を通らぬのも或はこれが原因かも知れぬ、郵便局に來た人々はポストを自轉車置場と間違へて

注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

居るのか一通の手紙を投函するにも相當な努力を要する始末だ。皇軍の猛進撃に右往左往して居る南京、その醜狀にも似たものが北海道の、しかも大支關として自負して居る函館に現存して居るのも甚だ遺憾と思ふた。(北海タイムス生)

小型貨物車は交通慘禍の母か

近年小型自動車の増加と共に其の事故が屢々報道せらるるが自動車全般としてその加害事故は一體どんな状態を辿つて居るのかこれを我が國自動車の保有臺數の累年増加率と對照して見ますと

年次	事故累年 増減率	臺數累年 増加率
昭和五年	一九%	一〇、六%
同 六年	二三%	九、九%
同 七年	七%	五、〇%
同 八年	△一二%	二、八%
同 八年	八%	一一、五%
同 十年	△七%	一一、三%

(註)△は減

右の様に自動車全般としては昭和八年以降漸減の傾向を辿りつゝありますが、小型車においては遺憾ながら増加を示して居り、警視廳管下についていひますと、本年(昨年七月から本年六月末迄)は昨年比し、普通自動車にあつては六九六件の減少を示して居るに對し、小型車においては三百餘件の増加を示して居り、殊に小型の事故は貨物車によるものが多く小型車全事故の八六%迄は貨物車によるものであり、これに依つて見ても、小型車において貨物車の利用の著しさが解ります。次に事故發生

の原因に就いて見ますと、避讓不適當、徐行義務違反、速度超過信號又は合圖を爲さず、追越不適當滑走不適當なる右折、車の直前直後横斷、停車不適當、連續進行等が主なる原因であり、これから寒くなるにつれ所謂サイドスブリップの危険が生じ易くなりなすから、運転者は勿論通行人も十分に氣を付け、圓タクを止める時も餘り車の傍らによらぬ様注意が肝腎です。

最近東京も流し禁止、駐車場制に向つて進んで來た事は事故防止の意味から云つても結構な事ですが斯う云つた防止と云ふ事以外に事故發生後の事についても考究しなければならぬ事と思はれます。と清野謙次郎氏が談られた、その事を聞き大に研究を要する事件であることを痛感する。

物言へど唇更らに寒

からず？

年賀狀廢止が各省次官會議で申合はされ

外地以外の官吏は全面的に賀狀廢止となるであらうが之れに對して中々議論が交はされて居る。或人は皮肉な様な言ひ振りで廢止を謳歌して居る曰く、大本營設置の非常時局下にあつて官廳の役人あたりから年賀狀廢止の聲が擧がつた。これに刺戟されて、民間でも年賀狀に關する再検討が活潑に起つてきたやうである。

私達は生活改善の立場から、年賀狀は遠方の父母とか恩人その他の近親者に限らうといふ申合せをとつて行つてゐる。賀詞から氏名まで印刷にして、十二月の末の忙しい時にいづれば書生とか代理人に書かせたであらうやうな年賀狀などは、樂屋からみれば全く禮を失した虚偽も甚だしいものである。おかげで郵便局は臨時増員をしなければならぬし、貰つた方はお目出度い筈の年賀狀の爲に、天下泰平を謳歌することも出来ずその整理やら答禮に元且から忙しい思ひをしなければならぬ。これなど

は全く無駄な虚禮からきた忙しきである。とさる人が話された又官僚主義とか官吏獨善主義とか唱へて官吏の缺點短所を挙げ排斥するものがあるが獨善主義や獨尊主義は獨り官吏のみ見らるゝ短所ではない政黨界でも實業界でも學界でも宗教界でも中々のうるさきことである。地方の縣會で一議員が最近官吏は豪くなりまた臆病となり同時にゴマ化しが上手になつたこれが官吏の三特質であると詰問したとの噂である見様によつてはさもありなんだ豪もなく臆病でもなくゴマ化もししないと自ら良心的に公言し得るもの幾人ありや教育上の實際問題は此點に有する、謙遜、剛健、正義が小學兒童にのみの教育であらざらんことを切望するは甞に吾々のみならんやである。とそれもある教育人の意見である。

ありやなしやの珍聞

奇譚(10)

○千年前の種子發芽二百年前の山火事の跡からわらびの發生したとの事もあつたが今回千年前の種子が發芽したと云ふ譚である。夫は南米考古學研究行脚中の鳥居龍藏博士はペルー北部トルヒーヨ市附近にチャス〜とその他先住民族の古跡を尋ねて十月二十二日首府リマ市に歸著したが次のやうな面白い土産話を齎した。

「チオン河流域、チャンカイ谷及びトルヨ一等の古跡から約千年以前の玉黍蜀の種子が発掘されるがチャンカイでの話ではそれを嘗て大賀一郎博士は滿洲の古池から二百年以前の蓮の實を見付けてこれを見事に發芽させた人だから自分の集めて來たこの玉黍蜀の種子を是非大賀博士に渡したいと今から楽しみにしてゐる。とにかくこれが實際發芽を出したら大したものだ」

○魚を生む川眞珠貝 帝釋峽白雲洞守積山五行氏の發見川眞珠貝はいとも珍らしき貝である、積山氏の語る所に依れば、

「器を水に注いでこの貝を入れておきますとしばらくして魚の卵を吐き出します、卵はいつか尾を生じて活動を始めます。やがてはそれが立派に魚の形を完成して泳ぎ出します。丁度鮭の子のやうです。これが數刻で行はれますから手品をみるやうですそれが面白さに私も少年の時よく捕へたものです。桶に入れておいて一遊びして覗けば魚卵を吐いてゐる。次に見れば尾が生えてゐて動く、また一と遊びして行けば既に形態整つてツツーツツと泳いでゐるので、桶のお化けと面白がつたものです」と之れには京都大學黒田理學博士堀教諭の鑑定によると

「カハシンジニガヒは寒帯地方の産であつて北歌、シベリヤ、北米などに廣く分布し我が國にては千島、樺太、朝鮮北部、北海道東北地方におよび、なほ飛騨周防にも南下してゐることが比較的最近に知られるに至つた。これらの地方では山間の溪流の砂

礫中に埋棲するものである。名の示すが如く古く歐洲にては本種に含む眞珠を珍重したものであるが、優良なる海産眞珠が多量に供給せられるに至つたので今日では賤れたのであらう、肉は不味の方、食用には適しない、アイヌの土人はこの殻をナイフの代用とし樹皮を割ぐに用ひたと言はれる、軟體動物門、斧足綱、原靱帶目、カハシンジニガイ科、和名カハシンジニガイと云ふことである。

○紀伊續風土記を覆す古瓦天平の昔、佛教興隆の波にのつて諸國に國分寺ならびに國分尼寺が建立されわが紀州でも日置毗登弟弓が寺料一萬束を神護景雲元年六月に獻じ後三十六年を経ているの賀郡池田村、上岩出村に建立されたのは續日本紀に誌されてをり、現在池田村のを東國分寺、上岩出村のを西國分寺と呼んでゐるがそのいづれが國分僧寺であり國分尼寺であるかは史學界多年の研究課題で『紀伊續風土記』では

池田村が尼寺、上岩出村が僧寺となつてゐるのに對して先年黑板文學博士はその反對説を唱へ學界の注目を惹いたがこのほど縣聖蹟調査囑託伊東只人が詳細な實地調査や文獻並に發掘した古瓦などにより黑板博士説を支持してその考證を發表した。これによると當時紀州は前後五旬にわたる飢饉で民の疲弊が甚しく國分寺建立が困難であつたのでまづ尼寺は古いものをもつてこれにあてたため西國分寺はその様式が奈良朝以前であるのと東國分寺には藤原時代の瓦がありこれは元慶三年に國分寺が焼けたといふ三代實錄の文獻を裏書してその後再建されたことを示すとともに僧寺の本尊は全國の實例を見ても藥師如來で必ず山號または寺號に『醫王』があり尼寺は觀音菩薩が本尊であるが池田村には八光山醫王寺が現存してゐる有様で發掘された藤原時代の梵字疏瓦ならびにその他の史料とともに池田村に國分寺、上岩出村に國分尼寺が置かれて

ゐたのを明にし紀伊續風土記の説を覆すことになつたわけである。

○今日にも遺る奇習 山形縣東置賜郡上郷村では昔から耳ふさぎの習慣がある、これは近所の十歳以下の子供が病死した場合、その死亡した子供と同年の子供をもつ親達は子供を座敷の眞中に坐らせて、其の前に農具用の箕を伏せ、親は子供の後ろに廻はつて右手に草刈鎌、左手に碗をもち見まゝ、聞くまい、語るまい、かまはん、かまはん」と唱へながら、子供の耳を塞ぐ眞似をしてこれを三度繰返す。こうすれば病死した子供の様な病氣や厄を除く意味の呪ひになると傳へられて居る。又同郡山間部落では結婚式の當夜花嫁は村の若者頭に背負はれて臺所口から婚家へ行く奇習もあるとほんとうですかネ。